

ここがポイント 『日本21世紀ビジョン』
新しい躍動の時代—深まるつながり・ひろがる機会—

1. 岐路に立つ日本

この1~2年が分かれ道 (重点強化期間)

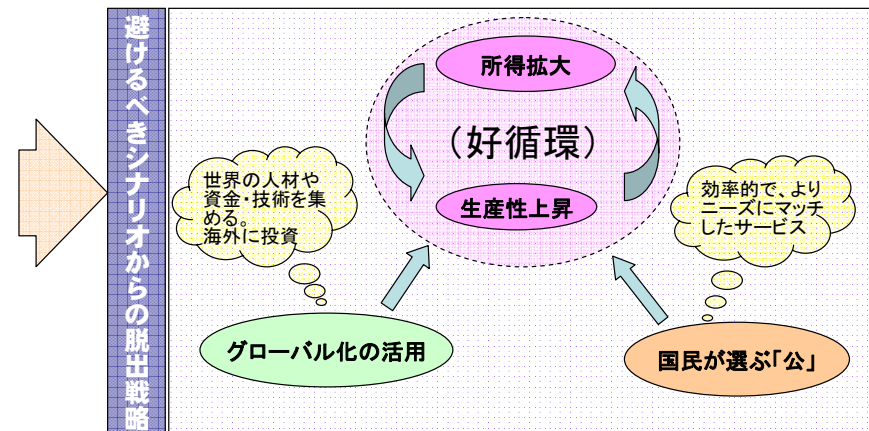


避けるべきシナリオ

- ① 経済が停滞し縮小する
☞ 人口の減少に加え、人材や資金を活かせず環境変化への対応が遅れ、経済が停滞し縮小する
- ② 官が民間経済活動の重し・足かせとなる
☞ 財政赤字を放置すると国債価格の暴落や長期金利の上昇を招きかねず、財政再建を増税のみで行うと個人や企業に大きな負担をかけ高負担高依存社会になる
- ③ グローバル化に取り残される
☞ 他国が進めている経済連携 (EPAなど) の波に取り残されると、成長のチャンスを失う
- ④ 希望を持たない人が増え、社会が不安定化する
☞ 格差が固定化して希望格差社会に向かうとともに、超高齢化や人口減少の影響で、かつてのニュータウンでゴースタウン化するものが出てくる

2. 「新しい躍動の時代」へ

人口減少、グローバル化、情報化などの急激な環境変化の中で、日本は何も対応しなければ衰退への道に向かいます。それを避けて「新しい躍動の時代」を迎えるためには、「生産性上昇と所得拡大の好循環」「グローバル化の活用」「国民が選ぶ『公』」という3つの戦略を採用すべきです。人口減少が始まり、団塊の世代が定年を迎える前のこの1~2年のうちに改革への道を選択しなければなりません。



2030年「新しい躍動の時代」

- 労働生産性が高まり、実質GDP成長率は1%台半ばの伸び
 - ・ 一人当たり実質GDP、実質消費は2%程度の伸び
 - ・ 健康、子育てサービスなど専門性の高い新しい消費需要も起こる
- 政府の役割の選択と集中により、政府の赤字が縮小
- 日本は経済連携を進め、グローバルに投資を行う「投資立国」になる
- 個人が主役になり、夢の実現や再挑戦がしやすい社会になる。数多くの世界のフロントランナーが生まれ、イノベーションを起こし、世界を主導する

3. 日本が2030年に目指すべき3つの将来像

開かれた文化創造国家

- 魅力と存在感のある国=伝統や創造力に裏付けされた生活・文化の魅力。コンテンツ市場も拡大し、「文化列島」となる
- 「世界標準」づくり=世界のフロントランナーがイノベーションを主導
- プロフェッショナルが働く「多様多才社会」
- 「列島開放」=経済連携の下で交流と活力を生み出す。「東アジア共同体」の形成へ
- 世界の中の「かけ橋国家」=信頼を基盤に幅広く交流の舞台を提供
- 「壁のない国」=世界中の人が「訪れたい、働きたい、住みたい」と思う国。外国人の「知日人」が大幅に増える

日本の課題は、交流や国際貢献を通じて、経済や社会の活力を高め、世界の信頼を得る国になること。他国に誇れる文化や技術を世界に発信し、世界中の人が日本に集まる、魅力的で存在感のある国になります

人生でより多くの時間を使えるようになり、時間の使い方が大切になります。
健康を保ち、自由な時間を活かして様々なチャンスを広げ、生涯現役で年齢に関係なく活躍できることで、活力ある社会が維持されます

「時持ち」が楽しむ「健康寿命80歳」

- 「健康寿命80歳」=現在の75歳から80歳へ
- 「時持ち」=生涯の可処分時間が1割以上増える
- 「二転職四学習社会」=楽しく働き、よく学び、よく遊ぶ。生涯にわたって才能を磨く
- 多様で良質なサービスに囲まれた暮らし=健康、生涯学習、子育て支援など、新たな三種の神器といえる質の高い専門的サービスが普及
- 地域を超えて広がるつながり=社会的な共(つながり)の輪が広がり、人の孤立化が防がれる

豊かな「公」・小さな「官」

- 小さくて効率的な「官」=政府は政府でなければできないことに徹する
- 「奉私奉公」=企業、NPO、社会的起業家など幅広い人々が、自分の可能性を高めながら豊かな「公」の活動を担う
- 「地域間競争」=個性豊かな自立した地域に。より良い制度が他地域に波及

現在の負担を将来の世代に先送りしないように改革を進めます。
民にできることは民で、地方にできることは地方でと、より受益者に近いところに権限を移していきます。そうして、暮らしのニーズへの対応や安心・安全を確立します

4. 必要な行動は何ですか？

開かれた文化創造国家

人間力

○人間力（個々人の意欲や能力・技能）を高める教育の構築
 ⇒世界で活躍する「世界人」を目指そう
 ⇒シニアも「ものづくりインストラクター」として活躍する

経済連携

○モデル・プロジェクトによるイノベーションの喚起
 ○科学技術創造立国、知財立国へ

国際貢献

○東アジアの経済統合、平和と安定の確保
 ⇒日本をよく知る外国人「知日人」を増やそう
 ○外国人の積極的、秩序ある受け入れ
 ○地球規模の課題への主導的な役割（環境・エネルギーなど）を果たす

「時持ち」が楽しむ「健康寿命80歳」

健康重視

○自立支援（健康増進、就労支援）型の社会保障
 ⇒病気の治療から予防に重点を置いた、健康志向の高い生活へ

再挑戦

○プロになる教育・訓練、転職が不利にならない税・年金制度
 ⇒転職四学習。人生に3度職を選ぶ機会と4度の能力・技能を高める学習機会を持つ

少子化対応

○格差の固定化を防ぐ機会の平等確保や再挑戦支援
 ⇒奨学金、正規・非正規雇用の均衡、ベンチャー、女性・高齢者の再就職の支援

豊かな「公」・小さな「官」

負担の先送りをストップ

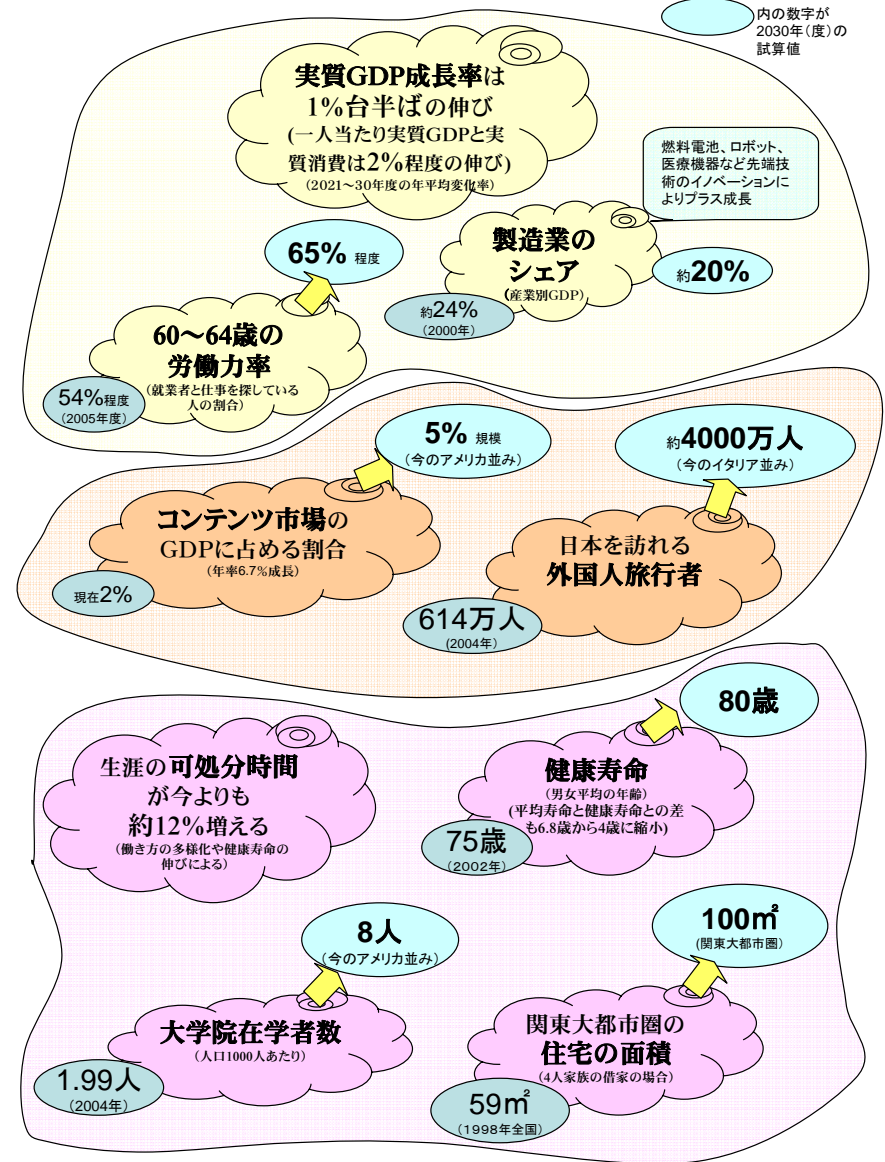
○将来世代への負担を先送りしない財政再建
 ○社会保障における若者世代への依存を低下させ、制度の持続可能性を高める

個人と地域が主役

○定期的な市場化テストの実施
 ○地域主権の確立、道州制の導入、地域政策における選択と集中
 ○NPOなどへの公的助成（優遇税制など）、社会投資ファンド
 ○リスクをチャンスにつなげる金融への改革
 ⇒法律や金融のリテラシー（理解・活用する能力）を高めよう

5. 数字でみた2030年

内の数字が2030年(度)の試算値



6. ビジョンに関する質問コーナー

2005年(平成17年)5月

Q1 ビジョンは何のために作られたのですか？

- ・ ビジョンは、これからどのような社会を目指すのか、そのために何をすればよいのか目印になる灯台のようなものです。構造改革の先にある2030年の日本の姿を共有することを目的としています。

Q2 「文化創造国家」で、なぜ文化を強調するのですか？

- ・ 日本の優れたモノづくり、アニメやファッション、食文化の根底にある日本の文化の力が、世界から人を集め、産業を動かす力になります。そして、世界を魅了する文化の力によって日本の存在感が高まることに注目しました。

Q3 どうして「時持ち」が注目されるのですか？

- ・ 「時持ち」は、何にどれだけ人生の時間を使うか、自分で工夫できる人です。家族・仕事・地域社会などのバランスをとり、自分に合った時間の使い方を実践できる人が、より豊かな人生を過ごすことができます。だから自由に使える時間の価値が高まっていくのです。

Q4 「健康寿命」とはどのようなものですか？

- ・ 「健康寿命」とは、心身共に健康で自立できる期間です。「健康寿命」が現在の75歳から80歳に伸びると、生涯を終える前まで自分を磨きながら年齢に関係なく活躍し自分らしい人生をおくることが、今よりもできるようになります。

Q5 なぜ「小さな官」を目指すのですか？

- ・ 急速な高齢化と人口減少の中で政府がこのままサービスを拡大すると、今よりも個人や企業、さらに将来の世代に負担をかけることになります。
- ・ 政府は政府でなければならないことに集中し、現場に近いところで公共サービスが提供されることで、よりきめ細かで手厚い政策を行うことができます。

Q6 要するに、構造改革が進むとどのような社会が実現するのですか？

- ・ 個人や地域が主役となる社会です。年齢、性別、時間、場所にとらわれず自分の好きなことに挑戦したり、成功への道筋がいくつもあるようなチャンスにあふれた社会です。



内閣府編

経済財政諮問会議では、2004年9月に「日本21世紀ビジョン」に関する専門調査会を設けました。さらに専門調査会の下に「経済財政展望」「競争力」「生活・地域」「グローバル化」の4つのワーキンググループが設けられ、精力的な審議がなされました。

「日本21世紀ビジョン」は、4つのワーキンググループにおいて、各分野の自由闊達に掘り下げた議論を行うとともに、専門調査会において、2030年のこの国のかたちができる限り明らかになるよう、それらを体系的に集約しつつ、取りまとめたものです。

このパンフレットは、説明のために作成したものですので、引用などについては、直接「日本21世紀ビジョン」専門調査会又はワーキンググループ報告書本文をご参照ください。

パンフレットに関するお問合せは下記まで

内閣府 〒100-8970

東京都千代田区霞が関3-1-1 合同庁舎4号館

電話:03-5253-2111(大代表)

経済社会システム総括担当

電話:03-3581-1041

日本21世紀ビジョンホームページ

<http://www.keizai-shimon.go.jp/special/vision/index.html>

キッズ版ホームページ

<http://www.keizai-shimon.go.jp/21visionkids>



シモンちゃんとビジョンもいるよ！